



ミニ・ミュンヘン研究会 公開セミナー ドイツ・ミュンヘン市の 『KINDER - UND JUGENDFORUM』と『KINDER JURY』

UNICEF では、“健康的な居住環境、民主的な社会、良い地域ガバナンスが行われているかどうかは、子どもが幸せかどうかということが指標となる”として、「子どもにやさしいまち、すべての人にとってやさしいまち」であるという「Child Friendly City (子どもにやさしいまち)」を提唱しています。このプログラムは、既にドイツやイギリス、カナダ等幾つかの国々でまちづくりや都市計画の施策に導入されており、子どもを取り巻く環境改善の効果があらわれてきています。

特にドイツのミュンヘン市では、約 20 年前から「子どもと家族にやさしいまち」を基本理念に取り入れ、市役所内に市長直轄の特別職「子ども

の参画専門員 (Kinderbeauftragte)」と地域毎にボランティアとして活躍する専門員を配置し、子どもの声を市政に反映させてきました。

そこで今回、ミュンヘン市の子ども参画専門員であるヤーナ・フレードリッヒ女史を日本にお招きして、ドイツ・ミュンヘン市の「子どもと家族にやさしいまち」推進プロジェクトの概要、その中でも代表的な事例である「子ども・青少年フォーラム (KINDER - UND JUGENDFORUM)」と「子どもまち診断士 (KINDER JURY)」事業を中心に、ミュンヘン市の子どもの都市市民教育と社会参画の取り組みを紹介する公開セミナーを開催します。

2014 年
8月21日(木) 13:00~16:30
(17:00~ 懇親会)

早稲田大学 26号館 (大隈タワー) 4階

定員：50名 (先着順)

資料代 1,000円・懇親会 1,000円

主催：ミニ・ミュンヘン研究会
早稲田大学社会科学部卯月盛夫研究室

第一部：子ども・青少年フォーラム (KINDER - UND JUGENDFORUM) の具体的なプロセスとその手法

「子ども・青少年フォーラム」は、子どもたちが毎日暮らす実際のまちで感じたさまざまな問題を解決するためのまちづくり提案を行うプログラムです。ミュンヘン市の本物の議場を使って、子どもたちが提案をプレゼンし、参加者の子どもたちによって決議されます。可決された提案は、市議会と行政が子どもたちとともに実施します。

第二部：子どもまち診断士 (KINDER JURY) の取り組み

子どもたちがまちを調査し、自分たちにとってやさしいまちかどうかを診断、評価するプロジェクト “キンダー・ジュリー”。いまヤーナ女史が最も力を入れているというこの事業の具体的な取り組みを、活動に使用しているグッズなども含めて紹介します。

講師：ヤーナ・フレードリッヒ (ミュンヘン市 子どもの参画専門員)
司会：卯月 盛夫 (ミニ・ミュンヘン研究会代表、早稲田大学社会科学部 教授)

講師紹介



ヤーナ・フレードリッヒ (G. Jana Frädrieh)

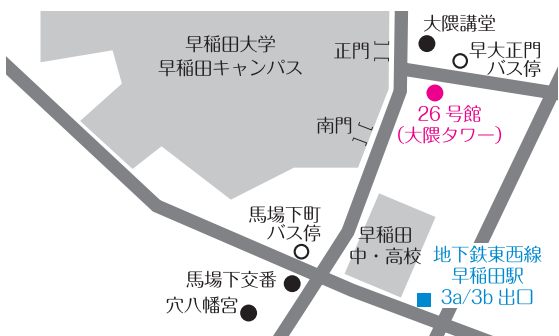
ミュンヘン大学でジャーナリズムを専攻。バイエルン放送局に勤務し、こども番組を担当する。1990-95年にミュンヘン市「子ども・青少年フォーラム」の司会を担当し、1995-97年にはミュンヘン市のユニセフ代理人を務める。1997年よりミュンヘン市の特別職「こどもの参画専門員」に就任。市のこども施策を統括し、現在にいたる。

申込み・お問合せは、
info@mi-mue.com

参加ご希望の方は、お名前、所属、連絡先、参加人数を明記の上、左記アドレスへメールにてお申し込みください。

または FAX...03-3204-8962

※FAXの場合は頭に”ミニ・ミュンヘン研究会代表 卯月盛夫”宛とご記入ください。



地下鉄東西線「早稲田駅」下車、馬場下町交差点を右折し、道なりに進むと右手に見えてくる 16 階建ての高い建物が 26 号館 (大隈タワー) です。JR 高田馬場駅よりバスでお越しの場合は、「早大正門前」で降りると便利です。